

事務事業マネジメントシート（兼 事務事業コスト計算書）

事務事業名	No. 8 人権啓発・普及事業		一実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください	
政策名	No. 2 2ひとが生きる、暮らす		所属部	政策経営部
施策名	No. 14 施策14 平和と人権の尊重		所属課	市長室
予算科目	会計 一般	款 0	項 2	目 0
事業期間	単年度のみ		法令根拠	期間限定複数年度

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)

<p>1.多摩東人権擁護委員協議会への参画 多摩東人権擁護委員協議会は、東京法務局府中支局管内の13市の人権擁護委員による組織。協議会は基本的人権を擁護し、自由人権思想の普及高揚に努め、人権が尊重される社会の実現に貢献することを目的とする。協議会の事業として、児童・生徒の人権に対する理解を深めるため、「全国中学生人権作文コンテスト」の募集、小学校での「子どもたちからの人権メッセージ」の募集、小学校での「人権の花」の栽培などを実施している。</p> <p>2.人権意識普及セミナー開催 人権に対する市民や職員の理解と関心を高めるため、セミナーを実施する。</p> <p>3.都や各市で行う会議等への出席と人権啓発の協力 人権施策推進都市町村連絡会、多摩地区各市町村同和問題意見交換会参画事業への出席。人権教育研修会参加。庁内人権啓発事業の把握。東京都はじめ関係機関からの啓発ポスター等の庁内掲示。広報誌への掲載。</p> <p>4.人権オンブズマン制度創設に向けての取組み</p>	不明
---	----

1 現状把握の部(PLAN) (DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

平成26年度の実績(平成26年度に行った主な活動)
人権擁護委員活動(人権相談、人権作文コンテスト、子どもたちからの人権メッセージ、人権の花、子ども人権委員などの事業)への協力、連絡調整、人権セミナー&ワークショップ(外国人の人権について、)の実施、学校向け人権講座の実施、被差別部落フィールドワーク研修の実施、人権オンブズマン制度創設に向けての取組み、その他定例会議への出席、各種人権啓発活動

平成27年度の事業計画(平成27年度に計画している主な活動)

人権擁護委員活動(人権相談、人権作文コンテスト、子どもたちからの人権メッセージ、人権の花、子ども人権委員などの事業)への協力、連絡調整、人権セミナー&ワークショップ(未定)の実施、学校向け人権講座の実施、被差別部落庁内研修の実施、人権オンブズマン制度創設に向けての取組み、その他定例会議への出席、各種人権啓発活動

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

全ての市民

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

人権に対する理解を深める

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

人権に対する理解が深まり、偏見や差別のない社会を実現する

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成23年度(決算)	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)(A)	平成26年度(決算見込み)(B)	平成27年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	セミナー等開催回数		1	0	2	2	2	
		セミナー、人権擁護活動等参加者数				114			
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	人口		74,265	74,381	74,303	75,000	75,000	
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	市が平和や人権を大切にしていると答えた割合		40.9	39.5	46.7	50	55	
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	人権が尊重されていると感じている市民の割合		50.1	48.4	55.7	60	65	

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成23年度(決算)	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)(A)	平成26年度(決算見込み)(B)	平成27年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人	2	3	2	2		
	延べ業務時間	時間	110	200	1,157	1,157	957	
	正規職員人件費計(C)	千円	550	1,000	5,787	5,787	4,787	
	再任用職員従事人数	人	0	0	0	0		
	延べ業務時間	時間	0	0	0	0	0	
	再任用職員人件費計(D)	千円	0	0	0	0	0	
	嘱託職員従事人数	人	0	0	1	2		
	延べ業務時間	時間	0	0	488	976	488	
	嘱託職員人件費計(E)	千円	0	0	732	1,464	732	
	人に係るコスト計(F)	千円	550	1,000	6,519	7,251	5,519	
物に係るコスト	物件費	千円	86	57	92	1,666	35	
	うち委託料	千円	0	0	23	256	23	
	維持補修費	千円	0	0	0	0	0	
	物に係るコスト計(G)	千円	86	57	92	1,666	35	
移転支的コスト	扶助費	千円	0	0	0	0	0	
	補助費等	千円	0	0	0	0	0	
	繰出金	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
移転支的コスト計(H)	千円	0	0	0	0	0		
その他	千円	0	0	0	0	0		
支出計(I)=(F)+(G)+(H)	千円	636	1,057	6,610	8,917	5,553		
収入内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	都支出金	千円	0	0	295	1,322	295	
	分担金及び負担金	千円	0	0	0	0	0	
	使用料及び手数料	千円	0	0	0	0	0	
	繰入金	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
収入計(J)	千円	0	0	295	1,322	295		
収支差額(K)=(J)-(I)	千円	-636	-1,057	-6,315	-7,595	-5,258		
一般財源投入割合	%	100%	100%	96%	85%	#DIV/0!		

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
		妥当である ⇒【以下に理由を記入】

有効性評価	② 成果の向上余地	向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
		向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】

有効性評価	③ 廃止・休止の成果への影響	影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
		影響有 ⇒【その内容】

有効性評価	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
		統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?

今年度、成果指標は大幅に向上している。人権擁護委員関連の既存事業のより一層の活用や、オンブズマン制度等の新たな取組みを通してさらに成果指標を向上させることが求められている。

効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保	事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
		事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】

公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減	削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
		削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】

公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化	見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映
		公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

今年度、市長室を新設して当該施策の実施体制を強化しており、一定程度のコストをかける時期であると考えている。人件費についても他市と比較して多いとは言えず、しばらくの間はこの体制を維持する必要がある。また、今年度は新規事業も多くあったため、2年目以降については効率性も向上するものと考えている。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)	
① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	今年度は、人権啓発セミナー(外国人の人権)を市民参加型のワークショップ形式にしたり、市役所の職員が被差別部落においてフィールドワークを実施したり、これまでにない事業展開を図ってきた。また、人権行政をさらに推進するため人権オンブズマン制度の創設にも取り掛かるなど、理念の啓発のみならず具体的な人権擁護システム構築を目指して取組みを強化してきた。今後は、さらに今年度着手できなかった市役所内における人権意識の向上策にも注力していきたい。	
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり		

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善)
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善)	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善)		
現状維持(従来通りで特に改革改善しない)			

公民館や学校などと連携・協力しながら、人権啓発講座やセミナー等の実施方法や内容を工夫することで、対象者の拡大とともにさらなる成果向上を期待できる。

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下	×		×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

<p>(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたことになりですか。また、見直し・廃止となりますか? 人権が尊重される社会を保障することは、市民個人の基本的人権を擁護するためにも恒久的に取り組むべき課題である。</p>
--

事務事業マネジメントシート（兼 事務事業コスト計算書）

事務事業名	No. 10	平和意識醸成事業		←実施計画上の重点施策 重点施策に該当する場合、ここから該当項目を選択してください	
政策名	No. 2	2ひとが生きる、暮らす		所属部	政策経営部
施策名	No. 14	施策14 平和と人権の尊重		所属課	市長室
予算科目	一般 0:2 0:1 0:9 0:1 0:4 7:0 0	事業コード	法令根拠	憲法、地方自治法	課長名 松田 周平
事業期間	単年度のみ	単年度繰返	期間限定複数年度	()年度 ~ ()年度	

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
 平和都市宣言を具体化するため、戦争体験を聞くつどいや戦争体験集作成、戦跡ツアーなどのイベントを実施する。不明
 また、原爆の日について多くの人に考えてもらうため、市と実行委員会の共催で原爆展を実施する。

1 現状把握の部(PLAN) (DO)
 (1) 事務事業の目的と指標
 ① 手段(主な活動)
 平成26年度の実績(平成26年度に行った主な活動)
 平和について考えてもらうため、くにたち原爆体験伝承者育成プロジェクト、戦争体験を聴く集い(一般、学校)、東京大空襲関連事業、「ふつうの日になったのか原爆の日」展、平和バスツアー、アンネのバラの取組みを継続して行った。また、公民館でも、人権講座などを開催した。
 平成27年度の事業計画(平成27年度に計画している主な活動)
 くにたち原爆体験伝承者育成プロジェクト、伝承者交流会@広島、戦争体験を聴く集い(一般、学校)、東京大空襲関連事業、「ふつうの日になったのか原爆の日」展、平和バスツアー、市内戦跡めぐりウォーキング、アンネのバラ講座など
 ② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等
 市民一般
 ③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
 平和への意識を醸成する。
 ④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)
 市民一人ひとりが平和への強い意志を発信している。

(2) 各指標等の推移

項目	名称	単位	平成23年度(決算)	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)(A)	平成26年度(決算見込み)(B)	平成27年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
① 手段	活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	開催回数		5	4	12	24	24	
		参加延べ人数							
② 対象	対象指標(対象の大きさを表す指標)	人口		74,265	74,381	74,303	75,000	75,000	
③ 意図	成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	参加して平和への理解が進んだと答えた参加者数							
④ 結果	上位成果指標(結果の達成度を表す指標)	国立市平和都市宣言の認知率		31.3	30.8	32.5	35	40	
		市が平和や人権を大切にしていると答えた割合		40.9	39.5	46.7	50	55	

(3) 事務事業コストの推移

項目	単位	平成23年度(決算)	平成24年度(決算)	平成25年度(決算)(A)	平成26年度(決算見込み)(B)	平成27年度(当初予算)	目標年度(目標値)	差額(B)-(A)
支出内訳	正規職員従事人数	人			2	2		
	延べ業務時間	時間			1,157	1,157		1,157
	正規職員人件費計(C)	千円		0	0	5,787	5,787	0
	再任用職員従事人数	人				0	0	
	延べ業務時間	時間				0	0	
	再任用職員人件費計(D)	千円		0	0	0	0	0
	嘱託職員従事人数	人				1	2	
	延べ業務時間	時間				488	976	488
	嘱託職員人件費計(E)	千円		0	0	732	1,464	0
	人に係るコスト計(F)	千円		0	0	6,519	7,251	0
物に係るコスト	物件費	千円			309	898		309
	うち委託料	千円			24	80		24
	維持補修費	千円			0	0		0
物に係るコスト計(G)		千円		0	0	309	898	0
移転支的コスト	扶助費	千円			0	0		0
	補助費等	千円			0	0		0
	繰出金	千円			0	0		0
	その他	千円			0	2		0
移転支的コスト計(H)		千円		0	0	2	0	0
その他	千円				0	0		0
支出計(I)=(F)+(G)+(H)		千円		0	0	6,828	8,151	0
収入内訳	国庫支出金	千円			0	0		0
	都支支出金	千円			295	1,322		295
	分担金及び負担金	千円			0	0		0
	使用料及び手数料	千円			0	0		0
	繰入金	千円			0	0		0
	その他	千円			0	0		0
収入計(J)		千円		0	0	295	1,322	0
収支差額(K)=(J)-(I)		千円		0	0	-6,533	-6,829	0
一般財源投入割合		%		#DIV/0!	#DIV/0!	96%	84%	#DIV/0!

2 評価の部(CHECK) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

公共関与性評価	① 公共関与の妥当性 なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 「平和都市宣言」を行っており、また、憲法や地方自治法の要請から鑑みても、地方自治体が関与することは妥当である。
有効性評価	② 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【以下に理由を記入】 昨年度と比べ、指標は大幅に向上しており、昨年度からの新規事業等を継続して実施し、また新たに事業を追加していくことで成果のさらなる向上を見込むことができる。
	③ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】 憲法や地方自治法の要請に反しており、平和な環境を維持できなくなり、安心して生活することが困難になる恐れがある。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【以下に理由を記入】 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【以下に理由を記入】 かねてより公民館が実施している平和関連の講座等との連携は考えられる。

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
 さらなる成果の向上余地があるため、実施方法を工夫しながら対象者や参加者を広げていく必要がある。

効率性評価	⑤ 事業費の削減余地・歳入の確保 成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など) さらなる歳入を確保できないか?	<input type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費削減(歳入確保)余地がない ⇒【以下に理由を記入】 事業を拡大しているものの、予算的には最少のコストで実施しているため。
公平性評価	⑥ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか?(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【以下に理由を記入】 すでに嘱託職員が担当しているため。
	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか?不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 全ての市民を対象としているため。

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
 全ての市民を対象にはしているが、講座やイベント等の実施場所については、市内の各地域を巡回させるなど改善の余地がある。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 1次評価者としての評価結果

① 公共関与と妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
③ 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)
 くにたち原爆体験伝承者育成プロジェクト、伝承者交流会@広島、戦争体験を聴く集い(一般、学校)、東京大空襲関連事業、「ふつうの日になったのか原爆の日」展、平和バスツアー、アンネのバラ講座など、身近な題材から平和について考察する機会を提供することを目的に事業を実施した。各事業については、多くの事業でマスメディアに取り上げられ、特にくにたち原爆体験伝承者育成プロジェクトに関しては、新聞、テレビ問わず取材の申し込みが多数あり、年間を通しての継続取材も受けている状況である。次年度は、市内戦跡めぐりなど、さらに生活に近い地域という視点から平和を考える企画を計画する予定、さらに施策を進展させていく必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
 廃止 休止 事業統廃合・連携 事業のやり方改善(有効性改善)
 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
 引き続き、公民館や郷土文化館(H26年度、すでに連携して企画を実施)など、関連機関との連携をさらに模索する必要がある。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

	コスト		
	削減	維持	増加
向上		○	
維持			×
低下	×		×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
 公民館やくにたち郷土文化館など、関係機関との連携により、さらに効果的、効率的に施策を推進することが必要である。

(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか。また、見直し・廃止となりますか?安心して生活できる平和な環境を維持することが必要であり、数値目標が達成しても継続して実施することが重要であると考えます。